

栄町銀天街

日本の都市景観の大きな特徴は、商店が軒を連ね、両端に装飾されたアーチが目印の商店街である。これらの商店街は通常、主要な交通機関の拠点に近く、日中は車両が通行できず、全天候型の買い物を容易にするために屋根がついている。商店街の起源は、市場税が廃止され、ギルド制度が解体された後、商人達が市場を運営する公的認可を受けた 16 世紀後半にさかのぼることができる。

商店街は 1950 年代に隆盛を極め、21 世紀に入るまで、生活必需品やサービスを提供するだけでなく、祭りなどの地域活動の中心地として、地域の重要な役割を担っていた。近年は、郊外のショッピングモールを利用する人が増え、衰退の一途をたどっている。

1957 年に建てられた栄町銀天街は、桜町通りから棧橋通りまでの約 300 メートル。大正時代（1912-1926）の門司ブームの頃、この商店街は華やかでファッショナブルな街だった。

今日では、来訪者は昭和の店構えと、色あせた美しさの中に漂う穏やかな哀愁に惹かれてこの古い商店街を訪れる。魚屋、美容院、日本酒専門店、ロックバーなどが営業している。何十年も続くソフトクリーム屋「梅月」は、地元の名物だ。